



発行所 週刊粧業®
東京都文京区小日向4-5-10
(小日向サニーハイツ501号室) 〒112-0006
電話 (03)3836-2601
FAX (03)3836-2602
週刊粧業ホームページアドレス
<https://www.syogyo.jp>
E-メールアドレス
letter @ syogyo. jp
©週刊粧業 2022

新たな化粧品産業を実現するために

日本化粧品工業連合会会長 魚谷 雅彦



新型コロナウイルスの発生から2年余りが経過しましたが、状況は未だ予断を許しません。今やマスク着用等の基本的対策は私たちの日常生活の一部となりました。感染の拡大防止と社会経済活動の両立を図るウィズコロナを模索する日々が続いています。

好機です。また、サステナビリティへの対応は私たちの共通の課題ですが、化粧品産業においても取り組みのスピードをさらにあげていく必要があります。このような国内外の化粧品産業の存在感を高める

先日、音声ビジネスの可能性を語った本「ボイスティック革命」を読んだ。市場背景として、現代人は情報の洪水に晒され視覚の可処分時間はなくなる一方、移動中など「耳が空く」時間は多い。そこで近年は音声ビジネスが注目され、ITを掛け合わせたサービスが続々投入されているようだ。筆者自身もここ数年、本が朗読される「オーディobook」はじめ、音声アプリを日常的に使っている。音声だと作業をしながら情報収集できることに加え、視覚を使うより記憶の定着率が高いと個人的には感じている。(高)

例えば読書する際「目で読む」と無意識的に脳内で音読しており目と耳の双方が奪われる。一方「聴く」際は目が自由なため、情報とその時観た景色が紐づき記憶に残りやすいのかもしれない。実際「オーディobook」で実用書を聴きながら首都圏の各駅を経由して30kmほど走った際には、各章の内容と駅をセットで記憶したため、1年ほど経過した今も内容を鮮明に覚えている。

音声に拘わらず、今年も新たなサービスが続々出てくるだろう。変化におびえ斜に構えなくなるが「まずは使ってみる」をモットーに、技術革新が進む社会を存分に楽しんでいきたい。(高)

大きな課題に積極果敢に挑戦

東京化粧品工業会会長 澤田 晴子

新型コロナウイルス感染症の世界的流行の発生から2年余りを経過しましたが、私たちの日常生活はいまだにさまざまな影響を受けています。化粧品産業もかつてない厳しい状況が続いています。海外からの渡航制限が継続する中、これまでのようなインバウンド

境を脱して新たな発展段階に進むためには、コロナ後における社会の変化を見据えて、お客様の心をつかむ魅力的な製品やサービスを提供していかねければなりません。さらに、これまで以上に国際競争力を磨いていくことも大切です。

激動・激変の時代に対応する

西日本化粧品工業会会長 西村 元延



昨年の出来事を振り返りますと、一昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症に大きく振り回された1年でした。夏には1年延期されていた東京オリンピック・パラリンピックが、東京都に緊急事態宣言が発令される中、全ての会場が無観客で開催されましたが、クラスターアスリートの活躍に勇氣

つげられました。また、気候変動予測の基礎となる気候モデルを開発した真鍋淑郎氏がノーベル物理学賞を受賞され、加えて近年の巨大台風や豪雨の発生等、思いを馳せますと、気候変動・地球温暖化を含むSDGsの達成に向けて、国際社会が団結し、より一層取り組む必要があると感じています。

ポストコロナ社会を見据え、環境規制への対応や諸外国の規制への対応等を通じ、日本の化粧品産業のグローバル競争力の更なる強化を図ると共に、ジャパンビュティーを世界に積極的に発信して、この産業の存在感をより一層高めるため、西日本化粧品工業会は、日本化粧品工業連合会、東京化粧品工業会、中部化粧品工業会との再編・新団体設立に昨年10月に合意いたしました。2023年4月設立予定の新統一団体の一員として、業界が一丸となって激動・激変の時代に対応し、化粧品業界の健全な発展を目指してまいります。



デジタル社会の進展とともに化粧品市場のグローバル化も加速し、消費者が世界の化粧品を容易に手に取ることができるようになりました。日本の化粧品産業にとって、国際競争力の強化は喫緊の課題です。今こそ、ジャパンビュティーを世

化化粧品産業が現在の苦境を脱して新たな発展段階に進むためには、コロナ後における社会の変化を見据えて、お客様の心をつかむ魅力的な製品やサービスを提供していかねければなりません。さらに、これまで以上に国際競争力を磨いていくことも大切です。

化化粧品産業が大きな転換点にさしかかっているとき、工業会も時代の要請に応えられるよう生まれ変わらなければならま